

Expedition members

今回の舞台裏探検隊員はこちら



金澤 幹雄さん 東京都立桐ヶ丘高等学校勤務
学校では公民の教鞭をとる金澤さん。「普段から学校や区の図書館を利用することは多いですが、都立図書館にしかない利用方法も多くて、今後も活用してみたいです。膨大な収蔵庫や江戸時代の資料、資料保全の現場等、初めて目にするものばかりで、とても刺激を受けました。」



協力：東京都立中央図書館

1973年、都立日比谷図書館の蔵書を引き継いで開館。蔵書数は国内の公立図書館では最大級の約198万冊を所蔵。このうち、新しい図書を中心に約35万冊を開架している。

www.library.metro.tokyo.jp/

次回の参加者募集中!

今回は「宿泊施設」の舞台裏を探検!

訪問先は関東近郊を予定しています。くつろぎのひとときを過ごす宿泊施設を多くのスタッフが支えています。ぜひご応募ください!

応募方法: 差込の「かがやき」編集担当宛てはがきにある「大人の社会見学ルポへの参加希望」の欄にチェックを入れてお申し込みください。

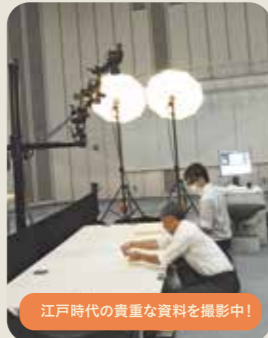
応募締切: 平成28年10月14日(金) 必着
取材時期: 10月下旬~11月中旬



収蔵庫には膨大な量の蔵書が!



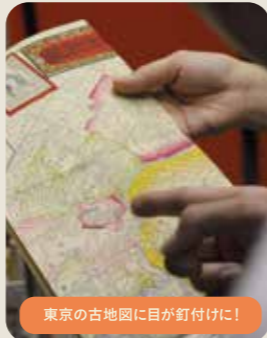
職員通路には、以前活躍していた目録カードケースが大事に保管されている。



江戸時代の貴重な資料を撮影中!

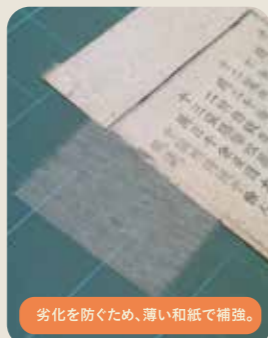


全国各地の大量の新聞を収蔵。

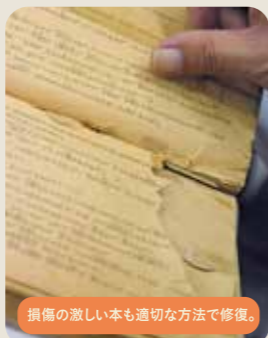


東京の古地図に目が釘付けに!

「図書館には、貴重な資料を守る多くの舞台裏がありました」



劣化を防ぐため、薄い和紙で補強。



損傷の激しい本も適切な方法で修復。



資料保全の職員、眞野さんに話を伺う。



製本に使う和紙や生地のストック。



糊は小麦のでんぷんで手づくりする。



虫喰いの痕を和紙と糊で丁寧に修復。

最後に案内されたのは工房のような場所。江戸時代の和装本等や破損した資料の修理を行う「資料保全室」です。資料修復専門の部署がある施設は珍しく、国会図書館以外の公立図書館ではここだけ。資料保存や修理・製本に長年携わってきた眞野節雄さんに話を伺いました。

「修復の仕事で大事なのは、材料の安全性と、数百年後にまた修理をするとき、簡単に剥がれて直しやすい状態にできること。だから自然の材料にこだわっています。未来の人に恥じない丁寧な仕事をしたいですね」と和紙やデンブ糊を使って約400年前の和装本の修復作業を見せてくださいました。修復現場を初めて目にする金澤さんは、「この技術はぜひ次の世代にも伝えてほしいですね」と感激。表からだけでは見えない舞台裏の仕事に触れて、まだまだ見てみたいと後ろ髪を引かれつつ、知の宝庫、図書館を後にしました。



いまや図書館は完全にコンピューターで蔵書管理がされている。過去の新聞記事が検索できるデータベースもある。

都心であることを忘れてしまうほど自然豊かな有栖川宮記念公園の森のなかに5階建ての建物があります。それが今回の取材先、『都立中央図書館』。国内でも有数の蔵書数を誇り、古今東西、幅広いジャンルの資料で、利用者の様々なニーズに応える図書館です。

今回の参加者 金澤幹雄さんと合流してエントランスへ入ると、司書の進藤つばらさんと松田裕希子さんが、編集部一行を出迎えてくださいました。

「1階の中央ホールでは様々な検索ができます。『醤油メーカーの昔の新聞広告』なんてマニアックな検索もできるんですよ」とパソコンの操作の仕方をナビゲート。画面に表示された昔の新聞広告を目にして、金澤さんは興味津々のご様子です。図書館では、例えば「おにぎりの俵型と三角形の由来」を調べたいとき、レファレンスサービスを利用すれば司書が最適な本や調べ方を探してくれるのだとか。意外に知られていない図書館の利用方法を聞いて、社会科が専門の金澤さんは「大いに今後の参考にしたい」と目を輝かせます。



大人の社会見学ルポ 「都立中央図書館の舞台裏」 舞台裏探検隊が行く!

取材/撮影: スクーデリア

the Backstage Tour.



蔵書をつなぐ、もうひとつの顔。

広い館内をひととおり巡って、いよいよ舞台裏へ潜入です。次に案内されたのは天井の高い多目的ホール。ほの暗い空間では江戸後期から大正期にかけての貴重な資料をデジタルアーカイブ化するための撮影が行われていました。「図書館の歴史的な資料は、博物館でガラス越しに観覧するのは違って、資料として提供するためにあります。ですから、閲覧できるように残していくことも重要な役割なんです」と特別文庫室で資料保存を担当する平安名道江さんが教えてくれました。「生徒にも図書館で調べものをして、『参考文献とは何か』を実体験してもらいたいですね」と金澤さん。

そして地下にある収蔵庫の扉を開けると普段公開されていない膨大な蔵書が整然と並んでいました。「約198万冊の蔵書のうち、8割以上が収蔵庫に保管されているんですよ。ほら、この棚には東京の古い資料が大量にあります」とどの棚に何があるかを熟知する進藤さんが、東京の古地図等様々な希少資料を見せてくださいました。「本当に知の宝庫ですね。一日居ても飽きないなあ」と金澤さんも感心しきり。